

知的障害教育課程 小学部

小学部 生活単元学習 学習指導案

- (1) 単元名 生活の中のごみ ～ 千葉市北清掃工場に行こう～
 道徳の内容項目 2－(5) 尊敬・感謝、4－(4) 勤労・奉仕
※道徳の内容項目に対応した部分には下線を付す。

(2) 単元について

本学級は、男子3名、女子2名の計5名の学級である。言語におけるコミュニケーションが可能な児童4名（発声が不明瞭なため、トーキングエイド等の補助具を使っている児童1名含む）と、発声が少なく表情や動作で気持ちを表す児童が1名である。ごみについて、分別されたごみがリサイクルされることを知っている児童が2名、ごみを分別した経験がない児童が3名である。このことは、日常生活の中で、自分で分別しごみを捨てる場面が少ないことが考えられる。



【千葉市北清掃工場】

自分たちの日常生活の中で「ごみ」は、日常生活の中で触れる経験が少ないことがわかった。そこで、本単元では、昨年度、「いろいろな職業を調べよう」の単元でパン工場の見学の経験があり、パンができるまでの工程や働く人の様子を見学した。商品ができるまでには、様々な人の関わりからできあがっていくのだということをもとに。清掃工場の見学を通して、自分が生活している環境の中からどのようなごみが出て、どのように処理されているのか、また、各家庭から出てくるごみの量や資源の再利用について知ることで、ごみをどのようにしていけばよいのかを理解する学習を行う。清掃工場の見学の際に、ごみ処理の仕方や働いている人々の工夫している点や努力している点を中心に見学するようにする。その中で働いている人の話しを聞くことで、わたしたちの良好な生活環境がつけられていることに気づき、ごみに対して意識してごみを分別し、処分することが日常生活にいかせるようになってほしい。本単元で学んできたことを日常生活にいかして、「自分たちにもできることがあるそうだ」「ごみ処理の〇〇を実際にやってみよう」という考えを話し合いながら持つことができるようになってほしい。

本単元を通して、「生きる力」の向上に向け、自分たちの周りにあるごみについて考え、ごみも大切な資源の一つであることを知り、自分ができるごみの処分方法を積極的に日常生活に取り入れていけるような意識が持てるようになってほしい。また、いろいろな職業で働く人への尊敬と感謝の気持ちが持てることを期待している。

本単元を通して、「生きる力」の向上に向け、自分たちの周りにあるごみについて考え、ごみも大切な資源の一つであることを知り、自分ができるごみの処分方法を積極的に日常生活に取り入れていけるような意識が持てるようになってほしい。また、いろいろな職業で働く人への尊敬と感謝の気持ちが持てることを期待している。

(3) 単元の目標

- ・ごみはどのように分別され処理されているのかを知り、自分ができることを考え、ごみを処理することができる。
- ・働いている人に対して感謝の気持ちを表現することができる。

(4) 指導計画 全9時間扱い（本時8、9時間目）


学習内容	時数（時間）
1 清掃工場について知ろう	
（1）清掃工場のしおりに作る	2
（2）清掃工場で作る人に聞きたいことを考える	2
○千葉市北清掃工場見学（1～4校時）	
（3）清掃工場を振り返る	
（4）働いている人に感謝の気持ちを込めて手紙を書く	2
3 自分でできることはなんだろう？	1
（1）実際に分別してみる	
（2）教室のごみを集めて分別する。	2（本時）

(6) 本時の指導

①本時の目標

- ・ごみの分別を実際に行い、工夫してごみを捨てることができる。
- ・友だちと協力して教室のごみを回収することができる。

②展開 (道徳の内容項目：道)

時配	学習内容と指導	指導・支援上の配慮点	資料その他										
10分	1 清掃工場で働く人への気持ちを発表しよう。 ・前回の授業で書いた手紙を発表する。 道2-(5)	・前回の授業で書いた感謝の手紙を映像で表示する。(T1) ・友だちの発表を聞くように促す。(T1)	テレビ パソコン 手紙										
30分	2 ごみの分別をしてみよう。 ・ペットボトルのラベルやキャップ、ボトルを分別し指定の場所に入れる。 ・カン、びん、紙類をそれぞれ指定の場所へ入れる。 	・ペットボトルや缶等を用意し、各自に配る。(T1) ・Aと一緒にごみを確認しながら、分別をし、指定の箱に入れる。(T2) ・Bと一緒にごみを確認しながら、分別をし、指定の箱に入れる。(T3) ・ラベルを剥がす時やペットボトルを潰すときにけがのないように注意を呼びかける。(T1) ・C、D、Eは分別できたら、自分で箱に入れるように言葉をかける。(T1)	箱 ペットボトル カン びん 紙										
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>ごみを分別し、教師と一緒に指定の箱に入れることができたか</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>ごみを分別し、教師と一緒に指定の箱に入れることができたか</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>自分で分別してごみを指定の箱に入れることができたか</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>自分で分別してごみを指定の箱に入れることができたか</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>自分で分別してごみを指定の箱に入れることができたか</td> </tr> </table>	A	ごみを分別し、教師と一緒に指定の箱に入れることができたか	B	ごみを分別し、教師と一緒に指定の箱に入れることができたか	C	自分で分別してごみを指定の箱に入れることができたか	D	自分で分別してごみを指定の箱に入れることができたか	E	自分で分別してごみを指定の箱に入れることができたか		
A	ごみを分別し、教師と一緒に指定の箱に入れることができたか												
B	ごみを分別し、教師と一緒に指定の箱に入れることができたか												
C	自分で分別してごみを指定の箱に入れることができたか												
D	自分で分別してごみを指定の箱に入れることができたか												
E	自分で分別してごみを指定の箱に入れることができたか												
	・ごみの分別が終わったら、箱の中を確認する。 道4-(4)	・一つずつ箱の中を確認し、短時間で分別ができたことを賞賛する。(T1)											
10分	休憩 (水分補給、トイレ) ※次時の準備をする (T1)												
30分	3 教室のごみを集めよう。 ・教室のごみを教室内置き場に集める。 ・友だちと協力しながら集める。 ・集められたごみを分別し、指定された箱に入れる。 ・箱のごみをごみ袋に入れる。 ・集められたごみを、台車に乗せ、学校のごみ置き場に持って行く。 道4-(4)	・資源ごみを教室に置く。(T1) ・A、Bはごみに触れ教師と一緒に確認しながら集積場所に運ぶ。(T2、T3) ・C、D、Eに周りの様子を見ながら、安全に落ち着いてごみを集めるように言葉をかける。(T1) ・前時に学習した分別に従い、丁寧に取り組むように言葉をかける。(T1) ・AとBは分別されたごみを指定されたごみ袋に入れる。(T2、T3) ・A、B、Dで台車にごみを乗せ、落とさないように補助する。(T2、T3) ・CとEに台車を協力して押すように言葉をかけ、方向がずれた場合は修正する。(T1)	資源ごみ シート 箱 ごみ袋 台車										

		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>友だちと一緒にごみを移し替えることができたか</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>友だちと一緒にごみを移し替えることができたか</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>友だちと一緒に協力して台車を押すことができたか</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>友だちと協力してごみを集めることができたか</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>友だちと一緒に協力して台車を押すことができたか</td> </tr> </table>	A	友だちと一緒にごみを移し替えることができたか	B	友だちと一緒にごみを移し替えることができたか	C	友だちと一緒に協力して台車を押すことができたか	D	友だちと協力してごみを集めることができたか	E	友だちと一緒に協力して台車を押すことができたか	
A	友だちと一緒にごみを移し替えることができたか												
B	友だちと一緒にごみを移し替えることができたか												
C	友だちと一緒に協力して台車を押すことができたか												
D	友だちと協力してごみを集めることができたか												
E	友だちと一緒に協力して台車を押すことができたか												
10分	<p>4 今後の自分はどうしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみの処理について、自分はこれからどのようにしていくか発表する。 <p style="text-align: center;">④4-(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分はこれからごみの処理をどのようにしていきたいのかと問いかける言葉をかける。(T1) Aは教師と一緒に考え発表する。(T2) Bは教師と一緒に考え発表する。(T3) 一人一人発表し、発表した内容は教師が記録する。(T1) 											

2 実践を終えて

- 各児童が書いた感謝の手紙をテレビ画面に映すことで、視覚的にも内容を見ることができ、話を聞きながら意見を共有することができたのはよかった。
- 児童が十分に活動できるだけのごみの量（ペットボトル、缶等）を確保していたことで、実践後に、ごみの量の確認で視覚的にも多さが分かり、活動への達成感を持つことができた。
- 自分たちが知っている知識を友だちと分かち合いながら、協力して活動に取り組むことができた。
- 児童が積極的に活動している様子が見られ、自分の力を発揮することができていた。
- リサイクルマークの理解について、取り組みの中にどのように入れていくか今後検討していく。

小学部 1 年 「遊びの指導」 学習支援案

1 題材名「「ツリードーム」であそぼう」

※道徳的教育に関わる部分を下線で示す。

2 題材について

本題材は「遊びの指導」の中で、簡単なルールや役割を意識しながらみんなで遊ぶ活動をする学習である。本題材は冬の行事であるクリスマスにちなんで、ツリーに見立てたドームやパネルシアターを取り入れた。まず楽しい雰囲気づくりを行うために、「あわてんぼうのサンタクロース」のパネルシアターを授業の導入とする。その後、煙突の箱の中から友達と一緒に飾りを取って「ツリードーム」に飾り、みんなで完成した「ツリードーム」で遊ぶことを通して、友達や教師と一緒に活動したり、みんなで一緒に「ツリードーム」の中で遊んだりする楽しさを感じてほしいと願った題材である。

<学級の児童について>

本学級は、男子児童4名で構成されている。コミュニケーション面では、全員が簡単な言葉での指示を理解することができ、日常的に言葉で意思伝達をする児童が1名、単語やサイン要求を伝える児童が2名、サインが出始めている児童が1名である。一人一人が友達を意識することを願い、移動の際などには友達同士で手をつないで移動したり、他の児童の活動への注目を促したりしてきた。その中で、朝の会などで友達の名前を呼んだり、移動の際に友達を自分から誘ったりする様子もあり、少しずつお互いへの意識がみられるようになってきている。また、教師に「〇〇をやって」など自分の気持ちを伝えたり、手を引いたりして、自分から教師に関わろうとすることも増えてきた。10月までは、学級での遊びの指導の中で「魔法の箱と4人のなかま」という題材に取り組んできた。その中で、自分たちが登場人物の紙芝居を楽しみながら、自分や友達の名前を言うなどの友達への意識が少しずつ出てきた。また、カプセルを探しに自分からトンネルの中へ入るなど活動に参加していく姿が見られるようにもなった。

<「ツリードーム」であそぼう>

本題材では、ダイナミックに体を動かして遊べるように児童全員が入って遊べる広さの「ツリードーム」を設定した。「ツリードーム」に飾りを付けた後、送風機とイルミネーションライトの電源を入れ「ツリードーム」が完成する、という授業の流れを作ること、最後に遊ぶことを期待しながら活動に取り組んでほしい。また、毎回授業を同じ流れで繰り返し行うことで、見通しをもって活動できるようにしたい。「ツリードーム」に飾り付ける場面では煙突の箱を用意し、紐を引っ張るとふたが開いて中にある飾りが出てくるようにした。活動の際にはペアを決め、友達と一緒に紐を引っ張り飾り付ける中で、友達の様子を見たり相手の動きを待ったりする姿を期待している。「「ツリードーム」」の中には風船を入れたりイルミネーションライトで照らしたりして、風船やツリーを眺めながら楽しめるようにしたい。「ツリードーム」の一つの空間の中で教師や友達と一緒に楽しく遊んでほしいと願っている。

「ツリードーム」の中では、風船などを使い児童が自分の好きな遊びをしながら安定した気持ちで十分に身体を動かして遊ぶことを大切にしたいと考えている。教師や友達と同じ場所で好きなことをしたり、教師とかかわり合いながら遊んだりすることで、身近な人たちと楽しく活動で

きる力につながってほしいと願っている。また、紐を引っ張るなどの簡単な活動を取り入れることで意欲的に取り組んでほしい。入学後より安心できる場となってきた学級の中で、友達や教師と一緒に遊んだり活動したりすることを通して、友達の存在への意識につながってほしいと願っている。

本時は本題材の6回目である。それぞれの児童が少しずつ活動に見通しをもち始め、煙突の箱から紐を引っ張って飾りを取ったり、「ツリードーム」に入って跳んだり風船を触ったりしているところである。

3 題材のねがい

○友達と一緒に活動に取り組んでほしい。

○体を動かして教師や友達と共に「「ツリードーム」」で遊んでほしい。

4 活動計画

①活動を進めるにあたって、大切に考えた教師の支援

○見通しや期待感をもって活動に取り組めるように

- ・活動の予定表を提示する。
- ・ペアや順番を毎回同じにし、繰り返し取り組む。（「ツリードーム」を飾ろう）
- ・完成を期待できるように「「ツリードーム」」の送風機とイルミネーションライトの電源をつないだスイッチを用意する。（「ツリードーム」を飾ろう）
- ・「ツリードーム」で遊ぶ時間では、音楽をきっかけに活動の始めと終わりが意識できるようにする。（「ツリードーム」であそぼう）

○自分の役割や友達を意識できるように

- ・煙突箱の中の飾りを友達と一緒に取る仕組みにする。（「ツリードーム」を飾ろう）
- ・ペアの児童の写真カードをホワイトボードに貼る。（「ツリードーム」を飾ろう）
- ・座る座席を毎回同じにし、ペアの友達と隣で座るようにする。

○一人一人の達成感を感じられるように

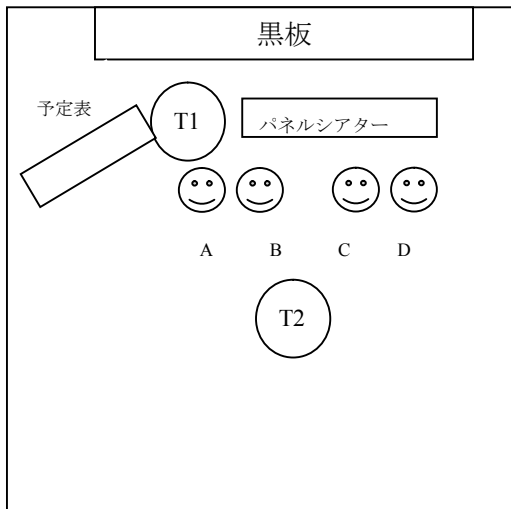
- ・全員でライトと送風機の電源を付けられるようにスイッチを用意する。
- ・「ツリードーム」に飾りつけをすることで、中で遊ぶことができるように設定する。
- ・「ツリードーム」の色を出来るだけ少なくし飾りを大きなものにするすることで、完成後の変化を感じられるようにする。（「ツリードーム」を飾ろう）

②日程計画（全6時間 6／6時間）

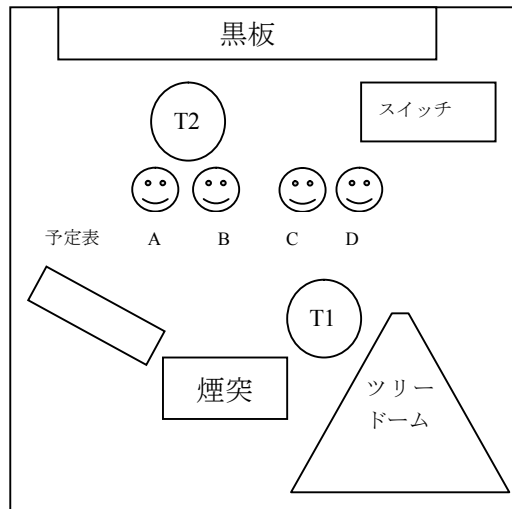
期日	11/ 8	22	29	12/ 6	13	16
回数	1	2	3	4	5	本時 6
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○パネルシアター「あわてんぼうのサンタクロース」 ○「ツリードーム」をかざろう ○「ツリードーム」であそぼう 					

③ 場の設定

<あいさつ、パネルシアター>



<「ツリードーム」をかざろう、あそぼう>



④ 道具、補助具など

<p>「ツリードーム」</p>	<p>飾り</p>	<p>煙突の箱</p>
<p>あわてんぼうのサンタクロース</p>	<p>予定表</p>	<p>スイッチおよびACリレー</p>

5 本時の計画

① ねがい

- 友達と一緒に飾りを取り、「ツリードーム」に飾ってほしい。
- 「ツリードーム」の中で、自分から体を動かしたり、風船を触ったりして遊んでほしい。

② 展開

時配	児童の活動	支援上の留意点	備考（道具など）
1	○始まりの挨拶をする。	・姿勢を正す言葉かけをしたり、間をとったりして、児童が注目できるようにする。(T1)	
4	○パネルシアターを観る。 「あわてんぼうのサンタクロース」	・パネルシアターに全員が注目してから始める。(T1) ・曲に合わせて、パネルシアターを動かしたり、前に出して見せたりして進める。(T1) ・パネルシアターに注目できない児童がいた際は、指さしや言葉かけをする。(T2) ・最後にきれいに飾られたツリーを強調して、次の活動へつなげる。(T1)	・パネルシアター ・パネルボード ・CDデッキ
7	○「ツリードーム」に飾りを付ける ・名前を呼ばれたら返事をする。 ・2人で手をつないで煙突まで行き飾りを取る。 ・飾りを取ったら、「ツリードーム」に飾る。	・椅子の向きを変えるように言葉かけをする。(T2) ・一人一人の前に行き、目線を合わせて児童の名前を呼ぶ。(T1) ・ペアの児童の写真カードをホワイトボードに提示する。(T1) ・飾りを取る際や飾りに行く際などでは児童の活動を見守りながら、「○○くんと一緒だよ」などと言葉かけをする。(T1) ・一組目が終わったら、煙突の箱の向きを変える。(T1) ・一組目の児童が「ツリードーム」に飾り付ける際に、指差しや言葉かけをして支援する。(T2)	・煙突の箱 ・飾り ・「ツリードーム」 ・写真カード
3	○スイッチを押して「ツリードーム」を膨らませる。 ・「3、2、1」のかけ声に合わせて、全員でツリーのスイッチを押す。 ・「ツリードーム」が膨らむのを待つ間に上履き、靴下を脱ぐ。	・スイッチを児童の前に用意し、かけ声をかける。(T1, T2) ・膨らんでいる「ツリードーム」へ注目できない児童がいた際は、指をさしたり「膨らんできたね」「きれいだね」などと言葉かけをしたりする。(T1) ・上履きと靴下を脱ぐように言葉かけをする。(T1)	・スイッチおよびA Cリレー ・送風機 ・イルミネーション ライト ・風船
10	○「ツリードーム」で遊ぶ。 ・名前を呼ばれた順に、「ツリードーム」の中に入って遊ぶ。	・順番に児童の名前を呼ぶ。(T1) ・一緒に「ツリードーム」の中に入り、風船を動かしたり、児童とやりとりをしたりしながら、児童が安全に遊ぶように支援をする。(T1, T2)	
5	○終わりの挨拶をする。	・終了の言葉かけをし、音楽を止める。(T1, T2) ・席に戻っていない児童がいたら「終わりだよ」と言葉かけをする。(T1, T2) ・本時での児童の活動を振り返る。(T1) ・姿勢を正すように言葉かけをしたり、間をとったりして、児童が注目できるようにする。(T1)	

6 協議会より

〈授業者から〉

- ・いろいろなハプニングがあり、頭が真っ白になってしまった。反省として大道具の準備が不十分ところがあった。
- ・慌ただしく詰め込みすぎたため、子どもたちにとって落ち着いて取り組めるものではなかった。
- ・担任間で話し合いをしたときにダイナミックに遊びたいと思った。道徳の内容を考えれば考えるほど難しくなり子どもたちの実態を考えた授業作りではなかったと感じた。遊びの授業の中に子どもたちの良さを引き出せるものになるとなおよいかと考えた。

〈参観者から〉

- ・子どもたちがとてもよい表情をしていた。泣いていた子どもも音楽が鳴るとスッと前を見ていた。
- ・「ツリドーム」の空間に入っただけで友達や教師を意識できるのではと思った。
- ・写真カードを自分のものだけでなく、友達のもを配ることもよいのではと思った。
- ・授業中の雰囲気がとてもよく、「ツリドーム」の工夫もよくされていてよかった。
- ・道徳は形のないものだから授業に入れるのは難しい。授業を作る上で何を大切にしたいか？参考にしたものは何か？→小学部の内規集や学習要領などを参考にした。小学部の低学年の道徳の授業は、難しいと感じた。
- ・特別支援学校の道徳の授業のねらいを本や県からの冊子でもっとみておくのもよかったのではと思う。個人的な意見や考えが入るのはどうか？
- ・友達同士で活動するという点に力を入れすぎたのかなと思う。
- ・展開が予定通りに行かないことはよくあるので、その対応をしっかりとすべきである。
- ・遊びの指導と道徳をどう結びつけていくか。身近な人とのかかわりをもって活動していくことをねらったものであったか？
- ・教材が少し複雑すぎたのでは？
- ・安全面に少し不安なところがあった
- ・ダイナミックに体を動かすことをねらってもよかったと思う。
- ・パネルシアターのトーンがちょうどよかったが、顔の位置が上で少し見えづらい佳奈と思うところがあった。
- ・全体を通してねらいをしっかりとてるとよい。
- ・道徳でやらなくてはという気持ちが強くなりすぎてもったいなかった。
- ・ひもで引っ張るということを日常でやっていなかったら難しいのではないか？
- ・子どもたちが遊ぶということはさまざまな段階を経て、最終的にルールのあるもので遊ぶようになる。そのような段階を押さえるべきである。
- ・A君は一人遊びだった。
- ・体を動かすことについての段階、感覚運動の発達段階をよく見て無理のない活動をする。

小学部 4年 図画工作 学習指導案

1 題材名 『土粘土で鍋敷きをつくらう』

2 題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学年は小学部4年生男子7名、女子1名の計8名で構成されている。うち3名の児童に自閉的傾向が見られ、1名がダウン症児、3名が肢体不自由を伴った障害がある。図画工作の活動では、素材の様々な感触を味わったり、イメージをもって作ったりする児童がいる一方で、初めて触れる素材や感触に対する不安が大きく、取り組むまでに時間がかかる児童もいる。そのため、実態に応じて活動内容や素材・用具の提示の工夫や配慮が必要である。また、児童それぞれが活動を理解する方法や理解に至るまでの時間には個人差があるため、個別で対応する必要がある。そこで、教師が手本を見せたり同じ活動を繰り返し行ったりすることで、見通しをもつことができるようになり、落ち着いて活動することができるようになってきている。児童がある程度活動を理解してきたら、支援を減らしながら自分から作品作りに取り組めるように学習内容を工夫していく必要がある。

(2) 題材観

本題材は、特別支援学校小学部学習指導要領の知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校における図画工作科の内容「表現」の観点の2段階(2)「土、木、紙などの身近な材料をもとに造形遊びをする。」と、「材料・用具」の観点の2段階(2)「粘土、クレヨン、はさみ、のりなどの身近な材料や用具を親しみながら使う。」を踏まえて設定したものである。

粘土は、児童の発想や働きかけに応じて形状を変化させたり、イメージに合わせて何度も作り変えたりすることができる素材である。児童はこれまでに紙粘土や油粘土などを用いて造形遊びや作品作りを行ってきた。今回用いる土粘土は、ひんやりとした感触や土特有の重みやにおいがあり、今までにない感触を味わうことができる。また、水分を含ませることにより硬さの調節がしやすく、曲げる、伸ばす、ひねるなど、形を自由に表現することができるのではないかと考え、本題材を設定した。

(3) 指導観

触れたものを舐めたり口に入れたりする児童もいるので、口に含んでも害のない土粘土を扱うが、扱いに際しては十分留意していく。土粘土に親しみ、楽しんで制作する児童がいる一方で、慣れない感触や汚れることに不快感をもち、触れることに抵抗感のある児童もいる。そのため、少しずつ様々な感触に触れる経験を重ねて慣れていくことを通して、身の回りのものや活動への興味・関心を広げていきたい。また、制作を行ったあとに、「自分が作った作品だ」と、児童が実感できるように、言葉かけや素材との出会いを工夫して授業を展開したい。具体的には、教師は児童が始めた活動を一緒に楽しんだり、作った作品を発表する場を設けたりする。更に、児童に応じた道具や環境を設定し、児童が安心して活動できるように配慮する。生活とのつながりを考え、できた作品をどのように使うのかも伝えていきたい。

(4) 題材の経緯

全8時間のうち、2時間を第一次として土粘土に親しむ時間とした。慣れない感触や汚れることが苦手な児童もへビやおだんごなどを作る活動により、少しずつ興味を持ち始めてきている。自由に土粘土に触れる

ことで、伸ばす、丸める、ちぎるなどの活動ができるようになってきた。

第二次の2時間では、土粘土を使ってお弁当箱の中身の制作を行った。プラスチックケースやバラン、ピックなどを用意し、お弁当に見立てやすくした。丸める（肉団子、おにぎり）、伸ばす（ウィンナー）、たたく（ハンバーグ、魚）など、児童の好きなものを作り、楽しんで活動していた。また、自然の葉や花などを利用すると、かしわもちを作って食べるまねをするなど、児童それぞれのイメージを作り上げてきている。

第三次の4時間では、第一次、第二次で土粘土に触れながら、イメージをもったり道具の扱い方に慣れたりしたことを踏まえて、鍋敷き作りを行う。制作の後には、土粘土を焼くことにより素材の変化を楽しみ、自分や友達の作品を鑑賞する時間をとる。土粘土の形を変化させたり、イメージに応じて道具を使ったりすることを通して、想像したり考えたりする力や、集中して物事に取り組む力も育てていきたい。イメージすることが難しい児童には、自分で粘土の形状を変化させたり、自分でつけた形や模様を楽しんだりすることで、一人一人の表現力を伸ばしていきたい。

3 題材の目標

- ・自分から土粘土に触れ、粘土の色やにおい、感触を味わいながら、土粘土を操作する。
- ・手指や道具を使って、イメージしたことや自分の考えを表現したり、形状の変化に気づき、自分で変化させたりして制作する。
- ・作品を作る工程を楽しんだり、友達の作品を鑑賞したりする。

4 指導計画（全時間、本時6／8）

全8回（9／5、9／11、9／19、9／26、10／3、10／10、10／17、10／24）

次	小单元名	ねらい	主な学習活動・内容	時数
一	土粘土に触ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・土粘土に触れて、感触やにおいを味わいながら、操作する。 ・手指を使い、土粘土の形状を変化させる。 ・自分や友達の作品を見て楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土粘土をこねたり丸めたりちぎったりする。 ・土粘土を長いひも状や円にしてへビやおだんごを作る。 ・できた作品を友達と見せ合う。 	2
二	土粘土でお弁当を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・土粘土に触れて、感触やにおいを味わいながら、操作する。 ・自分なりのイメージをもち、手指や道具を使って作る。 ・自分や友達の作品を見て楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土粘土をこねたり丸めたりちぎったりする。 ・手指やヘラ、ナイフ、フォークなどを使ってお弁当の中身を作る。 ・できた作品の発表会を行う。 	2
三	土粘土で鍋敷きを作ろう (本時2／4)	<ul style="list-style-type: none"> ・土粘土に触れて、感触やにおいを味わいながら、操作する。 ・自分なりのイメージをもって手指や道具を使って作る。 ・土粘土を焼くことによる素材の変化を楽しみ、友達の作品を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・麺棒や手を使い、土粘土を木枠に伸ばす。 ・手指やヘラ、ナイフ、フォークなどを使って絵や模様をつけて鍋敷きを作る。 ・焼き上がった鍋敷きの発表会を行う。 	4

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・自分から土粘土に触れ、粘土の色やにおいに気づいたり、感触を味わったりしながら、麺棒で伸ばす。
- ・手指やヘラ、ナイフ、フォークなどを使って、自分なりのイメージや考えを表現したり、土粘土の形状を変化させたりして絵や模様をつける。
- ・麺棒で土粘土を伸ばしたり、手指やヘラ、ナイフを使って模様をつけたりすることを楽しむ。

(2) 道徳教育のねらい

- ・姿勢を正し、言葉や身振りであいさつする。 2－(1) 礼儀・思いやり
- ・最後まで作品づくりに取り組む。 1－(2) 勤勉・努力

(3) キャリア教育のねらい

- ・準備・後片付けを行う。 ④将来設計能力
- ・教師の言葉かけや支援を受けて作品づくりに取り組む。 ①人間関係形成・社会形成能力

(4) 児童の様子とねらいと手立て

児童名	児童の様子	本時のねらい	手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土をちぎったり、伸ばしたりすることができる。お弁当づくりでは、教師の支援で意味づけた作品づくりに取り組めた。 ・道具の扱いについては、手本を見ながら真似して取り組むことができる。 ・楽しみながら活動し、できあがった作品をうれしそうに発表することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木杵に合わせて粘土を麺棒で伸ばす。 ・ヘラやナイフで土粘土をひっかいたり、重ねたりして好きな模様をつける。 ・自分でつけた絵や模様を見て楽しみ、できあがった作品を発表したり、見たりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・麺棒に力が入るように、立って活動するように促したり、言葉をかけたりして、スムーズに活動できるようにする。 ・教師が手本を示し、イメージが持ちやすいようにする。 ・活動の様子が伝えられるように、教師が補うようにする。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れることは苦手ではあるが、粘土に触れて形を変えることはできる。力は弱く、円や長いひも状にするのは難しい。 ・道具の扱いは、教師の言葉かけにより取り組むことができる。 ・お弁当づくりでは、自分なりにパックにつめて完成させようとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・麺棒や手を使い、木杵に合わせて粘土を麺棒で伸ばす。 ・ヘラやナイフで土粘土をひっかいたり、重ねたりして好きな模様をつける。 ・完成させる実感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木杵に粘土を入れ、方法を伝える。また、全面に広がるように、粘土の向きを変えるなどする。 ・いろいろな道具を示し、選択しやすいようにする。 ・できあがったときは、大いにほめて、達成感がもてるようにする。

C	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ以外の自分の好きなものも意欲的に作り、楽しく活動する様子が見られる。 ・手指の操作性は高く、道具の扱いも自分で工夫することができる。 ・お弁当づくりでは、自分なりのイメージで粘土を変化させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の手順を理解して、作業を進める。 ・自分なりにイメージをふくらませて、模様をつける。 ・楽しみながら活動に取り組み、できあがった作品を自分の言葉で説明して発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木枠や麺棒を用意し、見通しを持ちやすくする。 ・本人の作りたい作品や気持ちを確認して、いろいろな方法を伝えるようにする。 ・いろいろな場面で、活動を認めていくようにする。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れることは苦手ではあるが、活動を繰り返すことにより粘土に触れたり、形を変えたりすることはできる。 ・道具の扱いは、教師の支援により取り組むことができる。 ・お弁当づくりでは、教師の支援を受けて自分なりに作りたいものを作っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・麺棒や手を使い、木枠に合わせて粘土を麺棒で伸ばす。 ・ヘラやナイフで土粘土をひっかいたり、重ねたりして好きな模様をつける。 ・完成させる実感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木枠に粘土を入れ、方法を伝える。また、全面に広がるように、粘土の向きを変えるなどする。 ・道具によっていろいろな模様ができることに気づくようにし、興味をもてるようにする。 ・できあがったときは、大いにほめて、達成感をもてるようにする。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは指示を待っていることが多いが、活動内容が分かると自分から動いて活動する。 ・道具の扱いは、教師や友達の様子を見て、取り組むことができる。 ・お弁当づくりでは、集中して活動に取り組み、作ったものを発表することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明を聞き、できる部分は一人で制作を進める。 ・道具を使って土粘土を変化させ、自分のイメージや考えを表現して制作する。 ・楽しみながら活動に取り組み、できあがった作品を自分の言葉で説明して発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順や道具の扱い方を確認し、時間内に作品を仕上げるように言葉かけをする。 ・いろいろな方法を提示することにより、イメージを高めていく。 ・一人で活動している姿や、作品の出来上がりを大いにほめ、達成感を高める。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土をちぎったりたたいたりして、簡単な形にすることができる。 ・お弁当作りでは、簡単なイメージをもち、教師の支援により活動することができた。 ・作品を作る中で、自分なりの工夫や工程を楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手や麺棒を使い、木枠に合わせて粘土を麺棒で伸ばす。 ・ヘラやナイフを使って、土粘土に好きな模様を描いたり作ったりして制作する。 ・自分の作った作品を教師と一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・麺棒に力が入るように、立って活動するように促す。 ・道具の扱いを確認し、必要に応じて支援を行う。 ・作品のイメージをふくらませることができるよう言葉かけする。

G	<ul style="list-style-type: none"> ・お弁当づくりでは土粘土をたく、丸めるなどして作品づくりに取り組めた。 ・自分なりの道具の扱いができ、ヘラでひっかいたりたたいたりすることができる。 ・土粘土の形状が変わっていくことに気づきながら楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手や麺棒を使い、土粘土を伸ばす。 ・ヘラやナイフを使って、土粘土に好きな模様を描いたり作ったりして制作する。 ・自分でつけた模様や形を教師と一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木枠に粘土を入れ、麺棒で伸ばすように言葉かけをする。 ・道具の扱いを確認し、必要に応じて教師と一緒に作業する。 ・指差しや言葉かけをして、気持ちを高めるようにする。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて見るものや触れるものは苦手意識が強かったが、土粘土は積極的に触れて感触を味わっている。 ・自分の指やヘラ、フォークなどを使って土粘土の形を変化させることができる。 ・土粘土の形が変化する様子を見て楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手や麺棒を使い、土粘土を伸ばす。 ・手指、ヘラ、フォークなどで好きな模様をつけたりする。 ・手指、ヘラ、フォークを使い、土粘土が変化することや、ついた模様を見て楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて手本を見せたり目の前に提示したりして、自分から手を伸ばし土粘土に触れるようにする。 ・一人で難しい場合は、教師が手を添えて活動を行う。 ・土粘土が変化していく様子や、ついた模様を教師が言葉にしたり指さしたりして一緒に楽しむ。

(5) 本時の展開 (☆キャリア教育の視点での留意点 ◎道徳教育の視点での留意点)

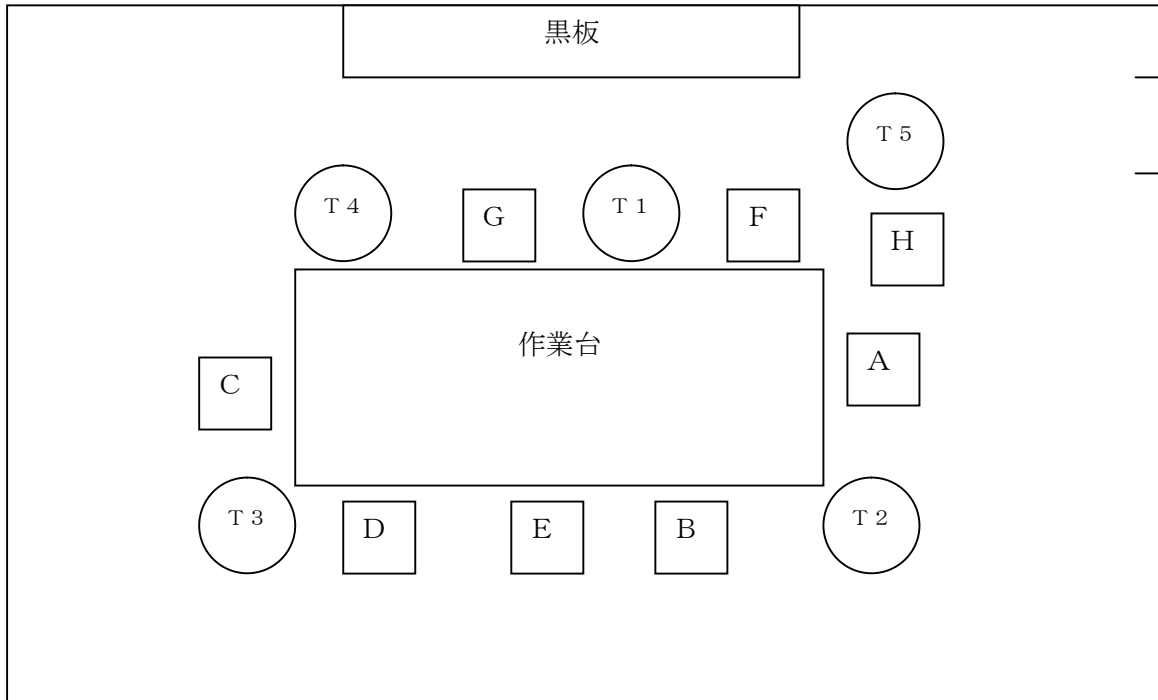
時配	学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入 5分	<p>1 はじめのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A組の日直の号令に合わせてあいさつをする。 <p>2 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動内容を想起する。 ・本時の活動内容を知る。 ・道具（ヘラ、ナイフ、麺棒）の使い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直や指導者と一緒にあいさつをすることで、学習の始まりを明確にし、意識できるようにする。 ◎姿勢を正すよう言葉かけをする。 ◎模倣しやすいように動作を強調したり、一緒に言葉を出したりする。 ・前時に作った鍋敷きや鍋を見せ、今までの活動を想起できるようにし、これから制作するものに対するイメージがもてるようにする。 ・手順表を見せ、取り組むことを確認させる。 ・簡単に説明し、個別に指導が必要な児童についてはそれぞれ確認しながら制作する。 	<p>鍋敷き 鍋</p> <p>手順表</p> <p>ヘラ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 作品づくりに必要な用具を伝え、準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具（ヘラ、ナイフ、フォーク、麺棒、木杵）をかごに入れ、作業台の上に置いておく。 ☆自分で準備できる児童（A、C、E）は一人で準備をする。支援が必要な児童（B、D、F、G、H）には言葉かけしながら一緒に準備する。 	ナイフ フォーク 麺棒 木杵
展 開 25 分	3 作品づくり <ul style="list-style-type: none"> 土粘土を木杵に伸ばし、土台を作る。 手指やヘラ、ナイフを使って絵や模様を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人で土粘土を伸ばすことが難しい児童（B、D、F、G、H）は、手を取って一緒に行く。木杵からはみ出した部分はヘラやナイフで切り取る。 土粘土を伸ばす位置がわからない児童（A、B、D、F、G、H）には、伸ばす位置を指や印で示す。 ◎手が止まっていたり迷っていたりした場合、指差しや言葉かけで知らせたり、手を取って一緒に行い、作品を仕上げるように支援する。 ☆次の活動に移れないときは、指差しや言葉かけで指示する。 作品を一緒に確認し、完成させたことをほめる。 	土粘土 粘土板
ま と め 10 分	4 片付け <ul style="list-style-type: none"> 道具をかごや元の位置に片付ける。 5 作品発表 6 次時の予告 7 終わりのあいさつ <ul style="list-style-type: none"> B組の日直の号令に合わせてあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分で片付けができる児童（A、C、E）は、一人で片付ける。支援が必要な児童（B、D、F、G、H）には言葉かけしながら一緒に片づけをする。 できた作品を発表するように、順番に指名する。 次回は、児童の進み具合によって制作の続きと新しい作品作りを行うことを伝え、期待を持たせる。 日直や指導者と一緒にあいさつをすることで、学習の終わりを明確にし、意識できるようにする。 ◎姿勢を正すよう言葉かけをする。 ◎模倣しやすいように動作を強調したり、一緒に言葉を出したりする。 	

6 評価

- ・自分から土粘土に触れ、粘土の色やにおいに気づいたり、感触を味わったりできたか。
- ・手指や麺棒、へら、ナイフなどを使って、イメージしたことや自分の考えを表現したり、土粘土の形状の変化に気づき、自分で変化させたりして制作できたか。
- ・麺棒で土粘土を伸ばしたり、手指やへら、ナイフを使って模様をつけたりすることを楽しめたか。

7 場の設定



小学部5年 道徳 学習指導案

- 1 主題名「あれあれ？マナー」
 内容項目 4—(1) 公徳心・規則の尊重 (2) 正義 (3) 役割と責任の自覚
 資料名 ①写真 ②教員と児童の再現

2 ねらい

身のまわりのできごとを通して、社会のきまりや約束の大切さに気づき、進んできまりを守って、気持ちよく生活しようという心情を育てる。

3 主題設定の理由

9月の校外宿泊学習でたくさんの公共の施設を利用する。公共の施設を大切に扱い、人に迷惑をかけるようにすることが、社会生活を営む上で必要な基本的な生活習慣であることは、言うまでもない。小学部の事前学習で重きをおくところは、児童が主体的に取り組みやすい乗り物の乗り方(乗るまでの方法)やレストランでのマナーや買い物の練習が多い。また、多くの児童は日頃の生活の中で乗用車やスクールバスを利用していることが多く、乗り物に関しても「あれあれ？」と思う場面に遭遇することが少ない。公共の場で、「あれあれ？」と思う場面を目にしてもどのような行動をすれば良いか分からない児童が多い。あえて、「あれあれ？」という場面を目の前で見たり、友だちの発言を聞いたりして、いろいろなことを感じてほしい。授業の中で、適切な行動をみんなで考え、教師と児童で確認しながら進めていきたい。

電車の中や道路、トイレの前で「あれあれ？」という場面を再現し、今後の学校生活や社会生活で、みんなで使う場所や物を大切にしてほしいと願っている。児童一人一人がきまりやマナーのことについて考え、きまりを守った先に、自分の笑顔や相手の笑顔が見えるようになってほしい。

本時は、前半では主人公がマナーを守らない人に出会うことで悲しい思いをする。後半では、児童からでてきた意見も付け加え、自分や相手のことを考えた行動をする中で、みんなが笑顔になり共感できるように場面を設定していきたいと思う。

4 展開

	○学習活動・主な発問	予想される反応	指導上の留意点
導入 5	○はじめの挨拶をする。 ○宿泊学習の歌をうたう。 ・これは何の写真でしょうか？	・楽しく歌う。 ⇒(電車の中・道路・くつ)	・5-2の日直が行う。 ・楽しんで歌えるように、楽器等を用意する。 ・児童の経験してきている場所を取り上げ、発言しやすくする。
展開 15	○電車の中の写真を見て話し合う。 ○実際に演技をしたり、演技を見たりする。 ・どうしたら良かったか話し合う。 ・これはどんな場面でしょうか？ ・何か変な(いけない)ところがありますか？	⇒「電車・バス」 ⇒「足がいけない」 ⇒「バックがある」	・言葉で理解しにくい児童のために写真を提示する。 ・T3とMDとNSとT1で演技をする。終わったら演技者を賞賛する。 ・児童が答えやすいように、わかりやすい質問を問いかけるようにする。 ・発表された内容が残るように模造紙に書いたり、顔写真を貼ったりする。 ・意見が出てこない場合はイラストの注目してほしい所に○をする。

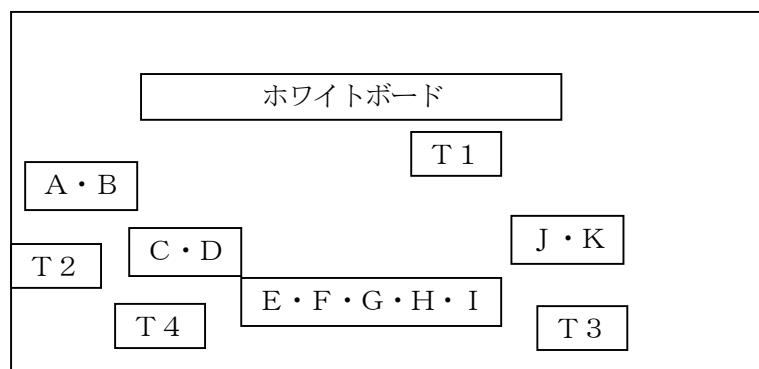
	<p>○道路の歩き方の写真を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> これはどんな場面でしょうか？ 何か変な(いけない)ところはありますか？ どうしたら良かったか話し合う。 	<p>⇒「道」 ⇒「道路」 ⇒「歩行学習」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言葉で理解しにくい児童のためにイラストを提示する。 児童が答えやすいように、わかりやすい質問を問いかけるようにする。 発表された内容が残るように模造紙に書いたり、顔写真を貼ったりする。 意見が出てこない場合は、イラストの注目してほしい所に○をしておく。
	<p>○トイレのスリッパの脱ぎ方の写真を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> これはどんな場面でしょうか？ <p>○実際に演技をしたり、演技を見たりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> どうしたら良かったか話し合う。 	<p>⇒「トイレ」サインで応える児童もいる。 ⇒「スリッパ」を指さして伝えようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言葉で理解しにくい児童のためにイラストを提示する。 児童が答えやすいように、わかりやすい質問を問いかけるようにする。 発表された内容が残るように模造紙に書いたり、顔写真を貼ったりする。 イラストの注目してほしい所に○をしておく。 <p>・T3とT1で演技をする。 ・児童が演技をしようと積極的になっている時には、その気持ちをくみ取り演技役を譲るようにする。</p>
<p>終末 5</p>	<p>○教師の話聞く。 ○3つの場面を写真で振り返る。</p> <p>○一人一人が心に残ったことや、思ったことを発表する。</p> <p>○終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 荷物を置かない 一列になって歩く スリッパを並べる 等 <p>の言葉がでてくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1場面ずつ模造紙を振り返るようにする。 3択のカードを用意する。 児童によっては、みんなの前に出る前にT2・3・4と事前を選んでおいてすぐに発表できるようにする。 <p>・日直が行う。</p>

★児童は良いマナーを演じることで褒められる経験をし、Tが悪い役を演じるようにする。

(6) 評価

- それぞれの場面で、思いやりをもって行動することについて考えることができたか。
- 自分の思ったことを、表現することができたか。

(7) 場の設定



<今回の授業を作るにあたって>

- ① 児童の身近な題材にした。
- ② そのため、実際に校外宿泊学習の事前学習の写真や高等部の生徒の協力をいただき、リアルな教材を作った。
- ③ 注目された場面だと声がだせなくなる児童や、教師によって参加の仕方のかわる児童もいるので、雰囲気作りや場の設定に配慮した。
- ④ 道徳の授業を作るにあたり、大変・負担と思われぬように教材は、時間をかけず簡単に作成した。(授業者が積極的にできるよう)した。

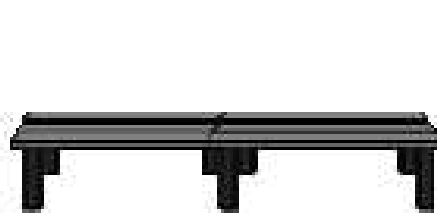
☆昨年・今年度と授業をするにあたり、日頃からの児童とのコミュニケーションこそが鍵を握っていると感じている。

資料（教材） イラストのテレビ・ベンチ・大きな手荷物・スリッパ3足

導入で使う3つの写真（この写真カードを、終木の発表でも使用する）



電車の中編



道路編



スリッパ編



【補足】

児童の気持ちや表出をひろって作っていく授業なので、○や×などの教材はあえて使わなかった。（作成はしたが、見直し）

小学部Dグループ自立活動 学習指導案

- 1 主題名 生きるよろこび
資料名「ぼく」竹田まゆみ 作 渡辺有一 絵 (教育画劇 みんなのえほん)
自立活動〈心理的な安定2-(3)〉〈人間関係の形成3-(3)〉
道徳3-(1) 生命の尊重

2 主題について

本グループは、男子3名(6年)と女子2名(6年、5年)の計5名の肢体不自由と知的障害を併せ持つ学級グループである。歩行は不安定であるが独歩が可能な児童が1名と常に車椅子やウォーカーを必要とする児童が4名であり、日常生活全般において部分的または全面的に支援を必要としている。1名は二語文程度のやりとりであるが、全員が言葉で会話することができる。障害の程度は様々であるものの、高学年として様々な活動において積極的に行動する姿が見受けられるようになってきている。しかし、自分自身のこととなると経験の少なさよっての自信のなさからか消極的になり、発表することも難しくなってしまうがちである。

児童は今までに、「わがままをしないで」「じぶんのちからで」道1-(1) 節度・節制、「正直な心で」道1-(4) 正直・明朗、「温かいやさしさ」道2-(2) 思いやり・親切、「友達と助けあって」道2-(3) 信頼・友情、「感謝の気持ち」道2-(4) 尊敬・感謝など、資料を使って学習している。学習を進めていくうちに、資料の内容を理解して発表をすることができるようになってきたが、「主人公の気持ちになって」や「この時、あなただったら」などの発問に対しては、経験が少ないためか考えることが難しくなってしまうことが見られる。そのため、児童に合った資料を選択していくことも大切な課題となっている。そこで、今回は、「自分のこと」について考え、朝元気に起きられる、おいしく朝食が食べられる、学校に来てみんなと楽しく学習や生活ができるというような極めて当たり前なこと、見過ごしがちな「生きている証」を実感し、そのことに喜びを見いだすことによって生命の大切さを自覚できるような内容を資料とした。

生命の大切さについては、これまでにモンシロチョウ・アゲハチョウ、メダカの卵を飼育し、成長していく様子を観察することで、自分の周りの「いのち」あるものに気づくことができた。羽化をしたアゲハチョウがカゴから出て空に飛んで行った時には、児童から歓声が上がった。また、羽化に失敗し、羽がクシャクシャのまま死んでしまったチョウや、教室で飼育していた金魚が死んだ時には、教師と一緒にお墓を作り、命は一つだけであることを学ぶことができた。

本資料は、主人公の『ぼく』が自分の好きなものを教えてあげようという語りかけから始まる独白調の話である。『ぼく』の好きなものは、お父さんから始まってペットや友達、自然などいろいろと挙げられているが、一番好きなものは『ぼく』であるとしている。『ぼく』が一番好きなのは『ぼく』という意味を、児童なりに自分の思いと重ね合わせながらとらえられるようにし、生きる喜びを味わえるようにしたい。また、終末では「手のひらを太陽に」をBGMで流しながら、笑顔いっぱいの児童の姿をスライドで映し出すことで主人公の『ぼく』と自分自身が重なり、より深く共感できるようにしたい。

本主題を通して、身近な生活の中から「生きていること」や「生きていることの喜び」を自覚し、自分が生きているからこそ自分の身の回りにあるたくさんの素敵なものや人に出会うことができることに気づき、生命の大切さを感じるとともに、自分自身を好きになり、主体的に輝いて生きていこうとする心情を育てたい。

(1) 指導内容・方法の工夫

- ・質問紙を用意し、ねらいにかかわる児童の道徳性のアンケート調査を行い、実態を調査するとと

もに、児童理解につなげ、本時のねらいや展開、事前・事後の指導等に生かすようにする。

- ・スムーズに資料の世界に浸れるように、資料にかかわる内容の導入を行い、資料への興味・関心を高めるようにする。
- ・終末に児童の身近な場面の写真をスライドにして提示し、主人公の『ぼく』の思いと重ね合わせながら『ぼく』と同じような素敵な場面を味わったり、想起したりすることができるようにする。

(2) 教材・教具、場の工夫

- ・大型TVを使い紙芝居風に話を進め、児童がじっくりと聞き入り、心に入っていくやすいよう範読は抑揚をつけたり、間のとり方を工夫しながら読むようにする。
- ・座席は互いの顔を見合えるようにし、教師と児童の距離も近くすることで、話し合い活動が充実できるようにする。
- ・大型TVが見えにくい児童については、場面絵を用意し手元で提示するようにする。

(3) 児童へのかかわりの工夫

- ・児童の自発的な言葉・動き・表現を大切にすること。
- ・児童の言葉や動きが引き出せるように、場面ごとにゆっくり話を進めるようにすること。
- ・T2、T3は、必要最小限の指導援助とし、T1と児童とのかかわりを大切にすること。

3 主題の目標

- ・生きていることの喜びを自覚し、これからの生活に意欲や希望をもって生活しようとする心情を育てることができる。
〈心理的な安定2-(3)〉〈人間関係の形成3-(3)〉
- ・感じたことを、簡単な言葉で表現したり、友達の話の聞いたりすることができる。
〈人間関係の形成3-(1)(2)〉〈コミュニケーション6-(2)(3)〉

4 主題の計画

年間を通して、教育活動全体において、児童の特性や発達段階の実態に応じて、日常生活の具体的な場面で指導を行っていく。それらを通して、かけがえのない命に気づき、生命あるものを大切にすることを育てるようにしていく。

年間 日常生活の指導（帰りの会）

「よかったこと・うれしかったことの発表」

- ・一日を振り返り、楽しかったことやがんばったこと、友達にしてもらってうれしかったことや、がんばっている友達を発表することで自分や友達のよさに気づくようにする。

5月 生活単元学習「野菜・草花をそだてよう」

- ・ヒマワリ、アサガオ、ミニトマトの種や苗を植え、成長を記録したり、毎日の水やりを行うことで、植物の中にある『いのち』に気づくようにする。

6月 1時間 自立活動「よごれたテーブルかけ」道1-(4) 正直・明朗

- ・日常生活で起こりそうな出来事を例に話し合い、うそやごまかしは、たとえ小さくても相手に嫌な気持ちを与え、自分も寂しく悲しい気持ちになることに気づくようにする。

7月 1時間 自立活動「くまくんのたからもの」道-2(2) 思いやり・親切

- ・幼い人や友達に温かい心で接し、思いやりの心をもって親切にしようとする心情を育てるようにする。

〈本主題の計画〉

8月 事前指導 日常生活の指導
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活の中で「楽しいな」「うれしいな」と思う時はどんな時か、自分のことが好きか等のアンケート調査を行い、自分のことについて考える機会をもつことができるようにする。
9月 2時間（本時1／2） 自立活動「ぼく」 道3－（1）生命の尊重
<ul style="list-style-type: none"> ・「命があるっていいことだな、すばらしいなという感動や生きているってこんなことなんだ」という実感が味わえるようにする。 ・自分の好きなところ、いいところを思い出し、「じぶんへのしょうじょう」を作ることで、自分の大切さを感じとることができるようにする。
9月～適時 事後指導 日常生活の指導
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会や帰りの会など、機会をとらえて教師が自身の体験、日ごろの思いなどをもとに、生きる喜びについて語りかけるようにする。病気やけがなどが治ったときのこと、新しい生命の誕生に出会った時のことなど、児童から出にくい話題を取り上げ、生命を大切にしようとする心情を育てていくようにする。

5 本時の目標

- ・好きなものを語り、生きている喜びを感じている『ぼく』に共感することができる。
〈心理的な安定2－（3）〉
- ・自分の思いを語り、友達の思いを聞くことができる。
〈人間関係の形成3－（1）（2）〉〈コミュニケーション6－（2）（3）〉

6 展開（1時間目／2時間）

・全体の留意点 □教師の役割や留意点 ※評価

時配	学習活動	指導上の留意点	教材・教具等
5分	1 自分の好きなものや好きなことを発表する。 ○サッカー ○ご飯 ○カレー ○ウインナー ○兄弟と遊ぶ ○アンパンマン ○テレビ ○ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にアンケートをとり、実態を把握しておく。 T1 ・資料にかかわる内容の質問をすることで、資料に入りやすい雰囲気を作り、興味・関心を高めるようにする。 ・特に範囲を限らず、思いついたことを発表できるようにする。 T2発表者に注視するように、言葉かけ等により促す。 （ABCさん） T3写真カードを提示し、見て好きな物を発表できるようにする。 （Eさん） 	
30分	2 資料「ぼく」の話を聞き、話し合う。 ①ぼくの好きなものはどんなものだろう。 ○お父さん ○お母さん	<ul style="list-style-type: none"> T1掲示資料を活用し、範読は抑揚をつけたり読むスピードを変えたりしながら読むことで『ぼく』の気持ちに共感できるようにする。 T3画面を見ることが難しいようであれば、手元に資料を用意し、集中して見ることができるようになるようにする。（Eさん） 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型TV ・資料「ぼく」の場面絵 ・絵本

- 飼い犬のベス
- 妹のハルカ
- ケンちゃん、ヒロシくん
- 焼きたてのクロワッサン
- ふろ上がりに裸でかけ回る
- 海
- 空

- ②なぜ、ぼくが一番好きなものは『ぼく』なのだろう。
- ぼくがいるから、好きなことができる。
 - ぼくがいるから、みんなに会える。
 - ぼくがいなかったら大好きなお父さんやお母さんに会えない。
 - 寝たり起きたり、食べたり遊んだりできるのは『ぼく』が生きているからなんだ。

- ③自分がいてよかったなと思うことを発表しあう。
- アニメを見ることが出来る。
 - 友達と一緒にいられる。
 - 家族と一緒にいられる。
 - おいしいものを食べることができる。
 - 好きなことをたくさんできる。

T 1

- ・挿絵を活用して、様子や情景を想像できるようにする。
- ・それぞれの好きな理由にかかわるキーワードを提示し、『ぼく』の心に共感できるようにする。

T 3

- ・つぶやきを拾い、共感することで自信をもって発表できるようにする。(Dさん)
- ・友達の発言を繰り返し伝え、意識できるようにする。(Eさん)

T 1

- ・「ぼくがいるから・・・」「ぼくがいないと・・・」というように、児童に投げかけ、「ぼく」が自分のことをいちばん好きだと言っている根拠を考えやすくする。
- ・キーワードの「ぼくのいちばん好きなものは『ぼく』。」を提示し、このことについて考えられるようにする。

T 2

- ・質問の趣旨にそって、自分の考えを話すように促す。(Bさん)
- ・みんなに聞こえるように、はっきりした声で話すよう促す。(Cさん)

T 3

- ・考えこんでいるようであれば、T 1の質問を再度伝え、発表を促す。(Dさん)
- ※生きている喜びを感じている『ぼく』の気持ちに共感することができたか。(発表・観察)
- ・『ぼく』の将来の夢に触れ、『ぼく』の可能性や夢に向かって頑張ろうとする気持ちに共感し、ぼくが生きているから夢の実現もあり、頑張ることもできるということを感じられるようにする。

T 1

資料最後にある「ところで、きみはなにがすき。」の文から自分自身へと視点を変えていくきっかけをつかむようにする。

- ・日常生活の当たり前のことであっても、自分が生きているあかしとして、見直すことができるようにする。

T 3

写真カードを提示し、見ることでイメージがわき、選んだり言葉で話したりすることができるようにする。

5分	<p>○兄弟と一緒にいることができる。</p> <p>3 自分と友達の笑顔いっぱい姿を見合う。</p> <p>○集会、体育祭、運動、学習、給食、遊び、校外学習 など</p>	<p>・「手のひらを太陽に」をBGMに、児童の身近な場面をスライドにして提示し、『ぼく』と同じような素敵な場面を味わったり想起したりすることができるようにする。</p> <p>T 3 「誰？」などと画面を指さし言葉かけをすることで、スライドに注目できるようにする。 (Eさん)</p> <p>・「〇〇しているところだね」等の言葉かけで思い出して見ることができるようにする。</p>	<p>・スライド</p> <p>・BGM</p> <p>「手のひらを太陽に」</p>
5分	<p>4 次時の予告を聞く。</p> <p>○自分好きなところ、いいところを思い出し、自分への賞状をつくる。</p>	<p>T 1 賞状を提示し、次回への期待をもつことができるようにする。</p>	<p>・賞状見本</p>

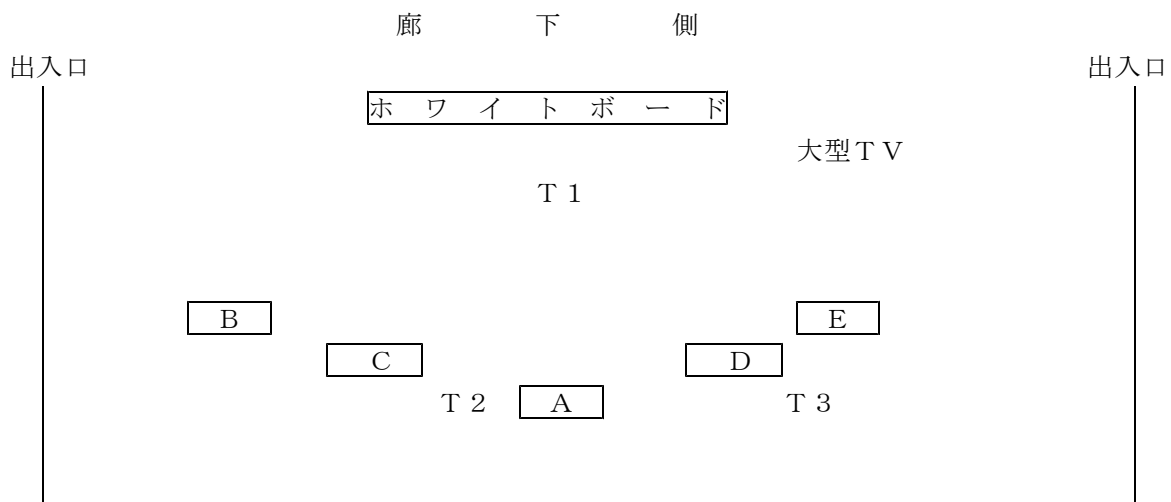
7 評価

- ・好きなものを語り、生きている喜びを感じている『ぼく』に共感することができたか。(児童)
- ・自分の思いを語り、友達の思いを聞くことができたか。(児童)
- ・資料の内容は、児童の実態に即したものであったか。(教師)
- ・児童の発言やつぶやきを大切に、児童の思考を深めることができたか。(教師)
- ・場面絵やスライドなどの提示の方法は、効果的であったか。(教師)
- ・教師の支援は適切であったか。(教師)

8 個別の実態及び目標、手だて

9. その他

《配置図》



小学部第5学年「食育」指導学習指導案

1 題材名 「バランスよく 食べよう」

*道徳的内容 低1-(1)健康に気をつけて生活する。

※道徳に関する指導については下線で示す。

2 指導内容

(1) 目標

○食べ物は、はたらきによって3つの仲間に分けることができることに気づく。

○どの仲間の食べ物も残さず食べよう、という気持ちを持つ。

(2) 展開

時配	児童の活動と内容	教師の指導と支援	教材・教具
2	1 始めの挨拶をする。	・栄養教諭と一緒に学習することを伝える。(T1)	
6	2 「たべるのだいすき」の本の読み聞かせを聞く。	・子どもたちが集中できるように、読む速さやページのめくりかたに気をつけて読み進める(T1)	本「たべるのだいすき」
4	3 <u>3つの色の仲間とその働きを知り、どれが欠けてもいけないことに気づく。</u> ・あか・・・からだをじょうぶにする ・きいろ・・・つよいちからをつくる ・みどり・・・びょうきから、まもってくれる	・子どもたちに親しみが持てるように、「げんきれっしゃ」に例える。どれかに偏ると列車は走らないことに触れる。 ・イメージが捉えられるように、具体的な言葉で補うようにする。	「げんきれっしゃ」の絵イラスト
10	4 赤、黄、緑、の仲間の食べ物カードを、袋から取り出して色別の台紙に貼る。	・食べ物の名前を確認しながら、行わせるようにする。(T1,T2) ・どの仲間の食べ物か視覚的にとらえられるように、色別の台紙に掲示していく。(T1)	食品カード袋 赤・黄・緑の台紙
5	5 今日の給食の献立と含まれている食べ物を知る。	・子どもたちがわかりやすいように、料理カードや食品カードを使って紹介する。(T2)	料理カード 食品カード
11	6 食品を、赤・黄・緑の仲間に分ける。	・仲間分けした表「げんきれっしゃ」を手がかりに、教師と一緒にポケットに入れさせるようにする。(T1) ・ <u>給食は、バランスよく考えられた献立であることに気付かせ、残さず食べようという気持ちを喚起させる。</u>	「げんきれっしゃ」の絵 食品ポケット
2	7 おわりのあいさつをする。	(T2) ・ <u>これからは、好きなものだけではなく、どれも残さず食べる大切であることを確認する。</u> (T1)	

(3)評価

○食品カードを、3つの仲間に分けて貼ることができたか。

○どれも残さず食べようという気持ちを持ったか。

<資料> 献立 麦ご飯、牛乳、豚すき煮、ゆで野菜、さつまいものレモン煮、味噌汁、りんご